月刊
新翔タイムズ
第67号
新翔タイムズ編集室
発行・熊野新聞社

全ての生徒がゴール！
第6回マラソン大会

2月13日（木）第6回新翔高校マラソン大会が午後から開催された。昨年度は雨により中止となったため、1・2学年共に初めてのマラソン大会となった。本年度の大会は、気温も高く、天候にも恵まれ、絶好のマラソン日和となった。男子は8・1キロ、女子は6・1キロの新宮港付近の道路をお借りして13時20分に男子スタート、13時30分に女子がスタートした。

制限時間は男女とも60分を設けていたが、制限時間までに全ての生徒がゴールでき、それぞれの生徒の授業での取り組みが結果に結びついていると感じる。また、生徒一人ひとりが自己の目標タイムに挑戦している姿は大変感動的であった。特に最終走者の生徒は走ることに対し苦手意識を持っていたが、授業以外でも毎朝父親と自主練習を行い、この大会に臨んだ。その結果制限時間内にゴールすることができた。

この大会を通して何事も最後までやり抜く力や粘り強く頑張る精神を学んだようである。持久走は苦手な生徒が多いが、回数を重ねると成果が目に見えて現れてくる。苦しいことの中から自分を伸ばすきっかけを見つけて努力をすることを持久走から学んでほしい。最後になりましたが、この大会を開催するにあたり、仕事中にもかかわらず、快く協力していただいた新宮港付近の企業の方々に感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

大会結果
▽男子
①坂　礼晟（1年3組）
②浅原大珠（2年3組）
③川北　航（1年2組）
▽女子
①前田　櫻（2年4組）
②西村柚李（2年1組）
③岡部未奈（1年5組）

志賀高原でスキー楽しむ
2学年 修学旅行

今年度の修学旅行は、長野県・志賀高原でのスキー・スノーボード体験学習で、1月21日から24日までの3泊4日で行われ、2年生134人が参加した。21日朝8時に学校を出発し、夕方には宿泊先のホテルに到着した。旅行2日目の体験学習初日には開校式が行われ、生徒会長の橋野颯真君があいさつし、講習が始まった。生徒たちは、事前に希望した班（計17班）に分かれ、現地のスキー学校のインストラクターに指導していただきながらスキー・スノーボードを体験した。

初日はスキー・スノーボードに慣れないことから、上手くいかず、悪戦苦闘している生徒もいたが、講習2日目になると、ある程度思い通りに滑ることができる生徒が多くなり、楽しい講習になった。23日午後には閉校式が行われ、副会長の瀧谷澪花さんがあいさつし、スキー・スノーボード講習を終了した。講習1日目は、天気の悪い中で行い、どうなることかと心配したが2日目の午後からは快晴に恵まれ、地元新宮では見ることのできない白銀の世界でスキー・スノーボードを体験することができた。

また、スキーをしない生徒は講習の時間に善光寺参拝や「あんずの里アグリ農園」へイチゴ狩り、天候が悪いこともあり景色は堪能することは出来なかったがゴンドラに乗って、東館山展望台に登った。ジャム作りなども行い、楽しく有意義なひと時を過ごした。

3年生担任が進路講話
「総合的な学習の時間」
2学年

2月17日（月）6限に2年生「総学」の時間に、3年生担任の先生からの「進路講話」を聞いた。2年生の「総学」で毎年行っているもので、12月には3年生の生徒4人から就職、進学の合格体験談を聞き、今回は、合格者も不合格者も指導してきた担任の先生からの体験談で、今、自分の進路実現に向けて何をしなければいけないかを話していただき、大変意義のある講話となった。

まず、3年3組担任横嶋先生より、「進路」は進んで行く路（みち）、ゴールまでの計画をしっかり立て、できるだけ早く取り組むことが大事であること、日常生活でのチェック項目を挙げて、一つでもチェックできなかった人は、心を入れかえてほしいことなどを話していただいた。また、筆記試験・面接試験の取り組み、受験までの流れなどの説明があった。

3年4組担任下平先生からは、目標の立て方、自分の武器（取り得）を見つけることの大切さについて話していただいた。3年2組担任堀木先生からは、目標が定まっていないと十分な活動ができないので、早いうちから、親と話し合って、何をやりたいか考えることが大事である。企業が注目するのは元気の良いあいさつ、高校時代に何に打ち込んだかという点であると話していただいた。

最後に、3年1組担任中本先生からは就職内定率が低く、厳しい現実があること、また、その原因は、不景気によることもあるが、生徒本人の就職活動や試験への準備の遅さにあることを挙げられ、就職試験に向けて今から準備することの大切さを語っていただいた。生徒は真剣に講話を聞き、熱心にメモを取っていた。

「まぐろ祭り」に参加
地域文化系列

1月25日（土）に那智勝浦町・勝浦漁業協同組合魚市場で行われた「第20回まぐろ祭り」に2年生地域文化系列9人が参加した。那智勝浦町は生マグロの水揚げ量日本一で、旬のマグロのおいしさを全国に広めるのが目的である。

まぐろ祭りでは、新鮮なキハダ、メバチ、ビンチョウなどのマグロが販売され、一頭造りで盛り上がり、「まぐろ汁」や「まぐろのカブト焼き」などが無料で振る舞われた。参加した生徒は、オープニングイベントから『めはり音頭』を地域の方々や外国からの観光客と一緒に楽しく踊った。

今年は、ゆるキャラブームに乗っかり、マグロの「マグちゃん」というキャラクターを2年生地域文化系列の授業で作成し、オープニングイベントに登場させた。手作り感満載ではあったが、喜んでいただけたのではないかと思う。

その後は、マグロの振る舞いや、会場に来ている子どもたちへお菓子のプレゼントを行った。参加した生徒たちも「地域を活性化させるために僕たちができることを考えて行きたい。今年は、勝浦をテーマに観光プランをしてみたい。」と意気込んでいた。

小型車両系建設機械講習
建設技術系列

1月27日（月）・28日（火）の2日間、本校にて小型車両系建設機械の運転の業務に係る特別教育の講習が実施されました。3年建設技術系列選択生6人が受講し、全員が修了しました。27日は、悠久館実習室で、走行に関する装置の構造及び取扱いの方法や作業に関する装置の構造、取扱い及び作業方法、運転に必要な一般的事項に関する知識を勉強しました。

28日は、プール横の空き地で、走行の操作、作業のための装置の操作の実技講習を受けました。これで機体重量3トン未満のブルドーザーやユンボなどの運転ができるようになりました。寒い中、お疲れさまでした。

職業観と勤労観学ぶ
インターンシップ
1学年

1月22日からの3日間、1年生全員が地元の各事業所に分かれてインターンシップを体験した。これは産業社会と人間という科目の学習の一環で今年度で7回目。今年は地元の68事業所の協力を受け、生徒たちは就業体験を行った。

この行事はインターンシップを体験させることによって人間としての在り方や生き方を考え、望ましい職業観や勤労観を身に付けることにつなげていくことを目標としている。生徒たちは中学時代に続き、2回目の体験であるが、決して学校では体験できないものであり、かつ初めて体験する職種であればなおさら貴重なものであり、自分の将来を真剣に考えることにつなげていってもらいたいものである。

生徒たちは「利益をあげることの大変さが知れてよかった。」「今回の体験が将来に役立つと思う。」「気配りや仕事に対する丁寧さはとても大切だと思った。」などと感想を述べた。

第2回学校評議員会を開催

同校は2月18日に第2回学校評議員会を開催した。この会の目的は、学校運営などについて学校外の有識者から幅広く意見を聞き、本校教育の改善・充実に資するとともに地域や社会に開かれた学校づくりを一層推進し、学校が家庭や地域と連携・協力しながら特色ある教育活動を展開することにある。

授業参観の後、本年度の進路状況・生徒指導状況・クラブ活動報告を行い、意見交換した。出席者から「ここ数年、生徒の身だしなみが改善されてきた。生徒指導の取組の成果であろう。」「授業態度や校内環境がずいぶん改善されよくなっている。」「総合学科校である新翔の特徴を生かし、地域との連携を密にして、中学生が進んで選ぶ高校にしてほしい。」などさまざまなご意見をいただいた。

竹村校長は「1年間における新翔高校について多くの意見をいただき、今後の教育活動に生かしていきたい」と語った。

新翔高校の学校評議員は7人。氏名は以下の通り。順不同敬称略。

川合啓介（㈱川合組）、倉橋延行（佐野区長）、児島隆也（㈲リフレわかやま）、下津修造（弁当　ぽてと）、瀬古正（新宮信用金庫徐福支店）、西哉素史（香梅堂）、濱口太史（紀南ビジネスマシン）。

◆先生の紹介◆
小池　佑介先生

本年度から赴任しています、小池佑介（こいけ・ゆうすけ）と申します。担当教科は社会科で、1年3組の副担任をしています。世界史や日本史を教えていますが、特に世界史は高校ではじめて学ぶ科目なので、難しいと感じる人もいらっしゃるかと思います。昨年、2020年の東京五輪開催が決定し、また、本田圭介選手や多くの日本人が世界で活躍するなど、文化・経済・スポーツと他分野にわたって今日の世界はつながりを深くしています。歴史を通じて新たに幅広い知識を身に付けることは、人生において有意義なことです。苦手意識を持つ人もがんばってください。私が生まれ育った和歌山県有田市は、ミカンが有名な地域です。実家は狭いながらもミカン畑を作っています。また、タチウオの水揚高が日本一としても有名です。高校時代は水泳部に所属し、100㍍・200㍍を中心に、平泳ぎ・自由形を練習していました。休み時間に図書館に通い、歴史漫画や小説を読んでいる、どちらかと言うとあまり目立たない生徒でした。紀北から紀南へといろんな学校を見てきましたが、新翔高校の生徒は素直で明るいと感じます。3年間の短い高校生活の中で、成長できるか、日々のんべんだらりと過ごすかは、自分次第です。後々後悔しないように、高校生活を送ってください。私自身、人間としてまだまだ未熟だと思います。生徒と共に日々学ぶことを楽しく思いながら、仕事をしています。よろしくお願いします。